

米英仏、シリア攻撃 化学兵器の使用断定



発行所
山形新聞社
〒990-8550
山形市旅籠町2-5-12
総合案内 023(622)5271
読者センター 023(622)5666
(平日9時30分～17時30分)
(c)山形新聞社2018

2018年
4月14日
〈土曜日〉

速報版 電子

やましん e聞

特別号外

■やまがた
ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
yamagata-np.jp
/mobile/



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

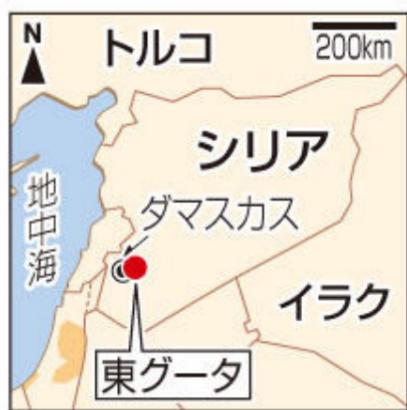
化学兵器の使用断定

アサド政権に報復

【ワシントン共同】米英仏3国は、シリアへの軍事攻撃を現地時間14日、開始した。メイ英首相が声明で明らかにした。トランプ米大統領は13日、国民報復攻撃を指示したと発表し、シリアのアサド政権が首都ダマスカス近郊東グータ地区で化学兵器を使い市民を殺傷したと断定、ロイター通信によると、米軍は巡航ミサイルのトマホークを使ってシリアの複数の標的を攻撃した。ダマスカスでは攻撃による大きな爆撃音が聞かれた。



13日、シリアのアサド政権への攻撃指示を発表するトランプ米大統領
＝ワシントンのホワイトハウス(ロイター＝共同)



トランプ政権はアサド政権の後ろ盾のロシアが常任理事国を務める国連安全保障理事会では、結束した対応が期待できないと判断、

大量破壊兵器である化学兵器の使用を問題視し、再び攻撃を決断した。ロシアの反発は必ず、緊張が高まるとみられる。
トランプ氏は演説で、化学兵器使用は「怪物による犯罪だ」と述べ、ロシアが使用を止められなかったと非難した。
トランプ氏は11日にツイッターで、ロシアを名指しし「準備しろ。ミサイルが行くぞ」と警告していた。
トランプ政権は昨年4月、シリア北西部でアサド政権が猛毒のサリンを使ったとしてシリア軍の施設を攻撃したが、その後も化学兵器を使ったとみられる。アサド政権は貫して化学兵器の使用を否定している。

購読・試読のお申し込みは▶
フリーダイヤル 0120-81-8040